

フジテック、ユーザー主体の開発で
デジタル化を推進
年間7,280時間の業務時間短縮と、
マネジメントサイクルの高速化を実現

FUJITEC



組織の概要

フジテックは、昇降機の専門メーカーとして、徹底した品質管理のもと、研究・開発、販売、生産、据付、保守、モダンゼーションまで、一貫体制で“安全・安心”な空間移動を実現し、世界の都市機能の高度化に貢献しています。23の国と地域に事業を展開し、日本国内には2つの研究・開発拠点、そして全国120カ所を超えるサービスセンターで保守にあたっています。

課題 開発、設計、生産、据付、保守…多様な部門でルーティン業務を自動化

2019年に発足したデジタルイノベーション本部では、テクノロジーによる更なる業務品質向上に向けて、2019年5月に各部門の業務プロセスの調査を実施。各部門の現場に実際に出向いて調査した結果、開発、設計、生産、据付、保守など多種多様な部門で、基幹システムだけではカバーしきれない集計などのルーティン業務が残っていることが分かりました。こうした業務を自動化することで更なる業務改善が行えるのではないかと2019年6月にRPA導入の検討を開始しました。

ソリューション 安心してユーザー主体の開発ができる環境を実現

RPAの選定は、5つの製品を比較検討しました。「ユーザー主体で開発できる」「集中管理ができる」「安全性と将来性が高い」という3つの軸で検討を進めました。その結果、「特別なプログラムの知識を求めずにコマンドが豊富」「レコーディング機能の便利さ」といったポイントからAutomation Anywhereをユーザー主体で開発できるソリューションと判断。また「AWSで管理可能」「Control Roomという一括管理の機能」「フロー型ではなくリスト型のUIなため、開発もしやすく現場で開発されたBotを解析して管理しやすい」「サーバー型で一元管理がしやすい」といった点から集中管理に適している面も評価されました。さらにシステム管理部 主事 中尾英世氏は「Automation Anywhereは高いセキュリティ機能はもとより、日本語対応だけでなく多言語対応しており、サポート面も充実。グローバル展開しているフジテックの実情に見合っていた」といいます。

メリット

7,280^{時間}

年間の業務削減時間

68

稼働Bot数

59

ユーザー部門開発の稼働Bot数

自動化されたプロセス

- ・社外システムへのデータ入力
- ・23部門での各種事務作業
- ・BIツールと連動する各種集計業務
- ・集計頻度の向上による
マネジメントサイクルの高速化

業界
製造

「Automation Anywhereは高いセキュリティ機能はもとより、日本語対応だけでなく多言語対応しており、サポート面も充実。グローバル展開しているフジテックの実情に見合っていました」



— フジテック
デジタルイノベーション本部
システム管理部
主事
中尾 英世氏

詳細 より自由な働き方が選択できるような環境づくり

業務プロセスの調査では、働く“場所”や“時間”、そして“人”に縛られている業務が多いことが分かったといいます。例えば“事務所に帰らないとできない業務”によって場所が拘束される。集計作業では、月次の集計を算出するために、“必ずこの時間に入力しなければならない”といった時間の拘束。また“Aさんでなければこの業務はできない”というような人による拘束。こうした場所・時間・人の拘束を排除し、それぞれの部門が専門的な業務に専念できること、より自由な働き方が選択できるような環境をつくることを目指して自動化を進めることにしました。また、同時にユーザー部門に対してトレーニングを行いました。プロセス管理部兼テクノロジー研究部の石岡早織氏は「RPAの導入は実際に業務にあたっている部門が開発します。デジタルイノベーション本部では、この開発をどのように支援できるか?というスタンスで、メンバーの大半はサポートや教育にあたっています。サポートメンバーはきめ細かいサポートができるように日々工夫しています」と語ります。

結果 稼働中のBotの87%がユーザー部門の独自開発

現在では23部門の中で68のBotが稼働。このうちデジタルイノベーション本部で開発したのは9個のみで、59のBotはユーザー部門が独自に開発しました。そして、RPA導入プロジェクト開始時に掲げた「2021年度に4,000時間の業務削減」「2024年度には7,000時間の業務削減」という目標も、3年前倒しで実現。2021年6月までに年間7,280時間もの業務削減効果を生み出しています。また、プロセス管理部長 山本健治氏は「RPAの効果は業務時間削減や人件費削減だけではない」といいます。「自動化を進める中で、今回自動化の対象とならなかった業務への効率化の意識も高まった。また、自分たちでも開発できるということが、テクノロジーの民主化に繋がった」と語ります。

今後の展望 よりインテリジェンスな活用を視野に

自動化のメリットは、当初想定していなかった様々な部門や業務にも出ています。集計業務の自動化では、月次で行われていた集計業務が週次や日次で行われるようになり、問題の早期発見や、対策の早期化、マネジメントサイクルの高速化に繋がったといいます。

山本氏は「今RPAは業務の“手”や“足”に相当する部分を担っています。今後は、AIやBIとRPAを連携させて判断という“頭”に相当する部分の改善につなげていきたいと考えています。よりインテリジェンスに深化させる方向に活用を進めていきたい」と語ります。

「場所・時間・人の拘束を排除し、それぞれの部門が専門的な業務に専念できること、より自由な働き方が選択できるような環境をつくることを目指して自動化を進めることにしました」



— フジテック
デジタルイノベーション本部
プロセス管理部
部長
山本 健治氏

「RPAの導入は実際に業務にあたっている部門が開発します。デジタルイノベーション本部では、この開発をどのように支援できるか?というスタンスで、メンバーの大半はサポートや教育にあたっています」



— フジテック
デジタルイノベーション本部
プロセス管理部兼
テクノロジー研究部
石岡 早織氏

Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP

 www.facebook.com/AutomationAnywhJP

 contact_japan@automationanywhere.com

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。

2021年8月バージョン1

